

第2章

保護者のかかわりと意識



佐藤 朝美 (1～4節)



第1節 親子でのメディアのルール、フィルタリング

保護者のかかわりとして、メディアを介してどのようなかかわりがあるのかたずねた。テレビ番組（録画を含む）やDVD・ブルーレイでは6割以上、スマートフォン・タブレット端末では3割以上で会話ややり取りが行われていた。メディアの使用時におけるルールをどのように決めているかについて、メディアの種類ごとに比較を行った。2013年と比較すると、どの項目でも割合が下がっていた。ただし、「時間の長さを決めている」ケースが、パソコン、携帯電話以外のメディアで3割以上みられた。一方、スマートフォンやタブレット端末等の新しいメディアについては、ルールをとくに決めていないケースが多くみられた。フィルタリングによる対策もハードルが高いようであり、ほとんどの保護者がフィルタリングをしていない状況であった。

●テレビ番組（録画を含む）やDVD・ブルーレイを通して親子で対話する傾向がある

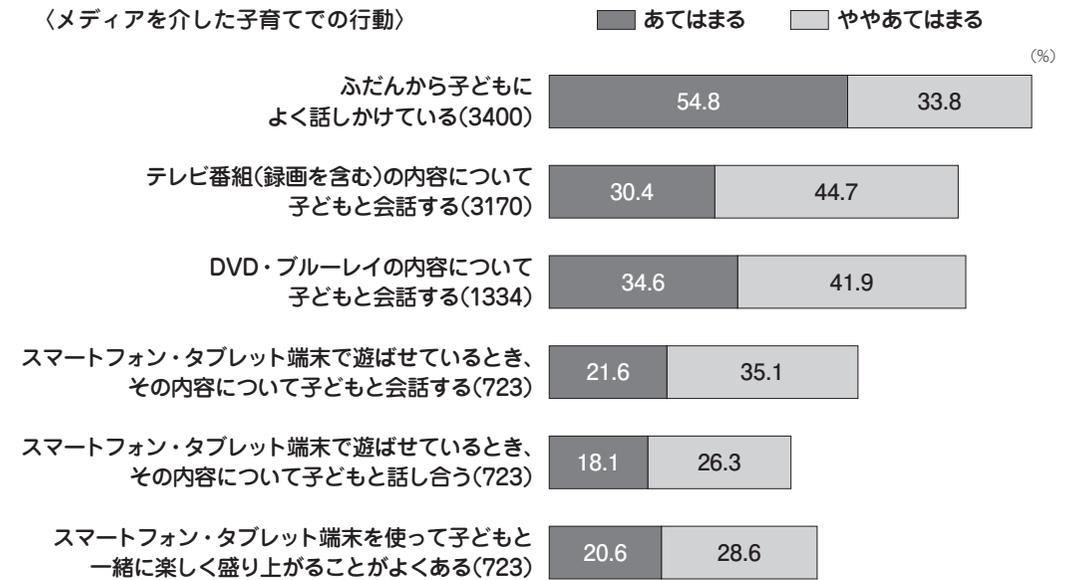
本アンケートの対象者は、「ふだんから子どもに話しかけている」に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答したものが88.6%と約9割が該当する(図2-1-1)。このように、ふだんから子どもに話しかけている保護者が、各メディアを通してどのように行動するのだろうか。「テレビ番組（録画を含む）の内容について子どもと会話する」に「あてはまる」「ややあてはまる」との回答は、75.1%、DVD・ブルーレイの内容については76.5%であった。別質問においてテレビ番組（録画を含む）やビデオ・DVDは、「親が家事などで手をはなせないとき」に活用するという回答が多いにもかかわらず、その内容については話すという結果となっており、視聴前後に、内容について会話することも想定される。

スマートフォン・タブレット端末では、「遊ばせているとき、その内容について子どもと会話する」は56.7%、「遊ばせているとき、その内容について子どもと話し合う」は44.4%だった。テレビ番組やDVD・ブルーレイと比較少ないものの、4割以上は対話

をしていた。さらに、「スマートフォン・タブレット端末を使って子どもと一緒に楽しく盛り上がるのがよくある」については、49.2%で、約5割の親子にとって、スマートフォン・タブレット端末が、一緒に遊ぶツールとなっている。

図には掲載していないが、子どもの年齢別にみると、他の年齢より顕著なものとして、「テレビ番組（録画を含む）の内容について子どもと会話する」で4歳が86.5%、「スマートフォン・タブレット端末で遊ばせているとき、その内容について子どもと会話する」で4歳が63.2%と他年齢に比べて高い。内容については4歳ごろの保護者が意識して話しかけていることが想定される。また「スマートフォン・タブレット端末で遊ばせているとき、その内容について子どもと話し合う」は2歳が59.3%、「スマートフォン・タブレット端末を使って子どもと一緒に楽しく盛り上がるのがよくある」も2歳が58.5%と、他年齢に比べて高かった。スマートフォン・タブレット端末の使用時には、とくに2歳児の保護者が積極的にかかわろうとしていることが想定される。

図2-1-1 あなたはお子さまの子育てについて、どのように行動していますか。(2017年)
〈メディアを介した子育てでの行動〉



注1) 子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1~2回以上使っている場合のみを算出。

注2) ()内はサンプル数。

●親子での各メディアの使用ルールについて、どの項目も減少の傾向があり、「とくに決めていない」が増加している

子どもがみたり使ったりしているメディアについて、親子でどれくらいルールを決めているのだろうか。本項目は2013年と同一であることから、まずその変化を比較する(図2-1-2~9)。どのメディアについても、ほとんどの項目で4年前より割合が減少している。

テレビについては、「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」「見方の約束が守れなかったら注意する」について、2013年より20ポイント以上減少していた。多くの項目で減少しているが、「時間の長さを決めている」「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」は、3割以上がルールを決めているとしていた。

ビデオ・DVDについては、「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」「見方の約束が守れなかったら注意する」が、2013年より20ポイント以上減少していた。多くの項目で減少しているが、「時間の長さを決めている」「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」は、3割以上がルールを決めているとしていた。これらは、テレビと同様の項目である。

パソコンについては、「内容を確認している」「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」「見るときは、親に伝えるように約束している」「食事中は見ないように約束している」が、2013年より20ポイント以上減少していた。どの項目も3割を下回っていた。さらに「とくにルールを決めていない」が20ポイント以上増加していた。

タブレット端末については、「内容を確認している」が、2013年より20ポイント以上減少していた。多くの項目で減少しているが、

「時間の長さを決めている」「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」「食事中は見ないように約束している」は、3割以上がルールを決めているとしていた。

スマートフォンについては、「見るときは、親に伝えるように約束している」が、20ポイント以上減少していた。多くの項目で2013年より減少しているが、「時間の長さを決めている」は若干増え、3割以上がルールを決めているとしていた。ただし、「とくにルールを決めていない」が10ポイント増加した。

携帯電話に関しては、どの項目も2013年から変化はなく、「とくにルールを決めていない」が若干上昇し、35.3%となっていた以外は3割を超えていない。

据え置き型ゲーム機については、「時間帯を決めている」について、2013年より20ポイント以上、「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」「場所を暗くしないようにしている」「見るときは、親に伝えるように約束している」「食事中は見ないように約束している」「見方の約束が守れなかったら注意する」について、30ポイント以上減少していた。多くの項目で減少し、「時間の長さを決めている」以外は3割を超えていない。

携帯型ゲーム機については、「場所を暗くしないようにしている」「見るときは、親に伝えるように約束している」「食事中は見ないように約束している」について、2013年より20ポイント以上、「見方の約束が守れなかったら注意する」について、30ポイント以上減少していた。多くの項目で減少し、「時間の長さを決めている」「場所を暗くしないようにしている」「食事中は見ないように約束している」で、3割を超えていた。

図には示していないが、年齢別にみると、どの項目も加齢とともに緩やかに割合が上昇していた。「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」においては、テレビ番組(録画を含む)、パソコン、タブレット端末の

視聴(使用)が3歳、ビデオ・DVDでは4歳、スマートフォンでは6歳のときに一番割合が高く、発達に合わせ、ルールを適用していることが想定される。

項目ごとにみていくと、「時間の長さを決めている」は、テレビ番組(録画を含む)、ビデオ・DVD、タブレット端末、スマートフォン、据え置き型ゲーム機、携帯型ゲーム機の視聴(使用)で30%以上だった。「スクリーンに目を近づけ過ぎないようにしている」と「場所を暗くしないようにしている」が、テレビ番組(録画を含む)、ビデオ・DVD、タブレット端末の視聴(使用)で30%以上であったのに対し、それ以外は低い割合となっていた。

「内容を確認している」と「見るときは、親に伝えるように約束している」は、どのメディアも30%以下だった。ただし、スマートフォンのみ5歳がそれぞれ、31.7%、30.7%と3割を超えており、スマートフォンに関しては、5歳という年齢がルールを伝えるタイミングとして適切と考えられているのではないかと推察される。

「食事中は見ないように約束している」については、タブレット端末で30.5%、携帯型ゲーム機で31.4%、「見方の約束が守れなかったら注意する」はタブレット端末のみ31.4%と3割を超えていた。

2017年で新たに設けられた「寝る前に見ない(使わない)ようにしている」は、どのメディアも25%以下、「インターネットをつながない状態で使わせる」についてはどのメディアも10%以下であった。

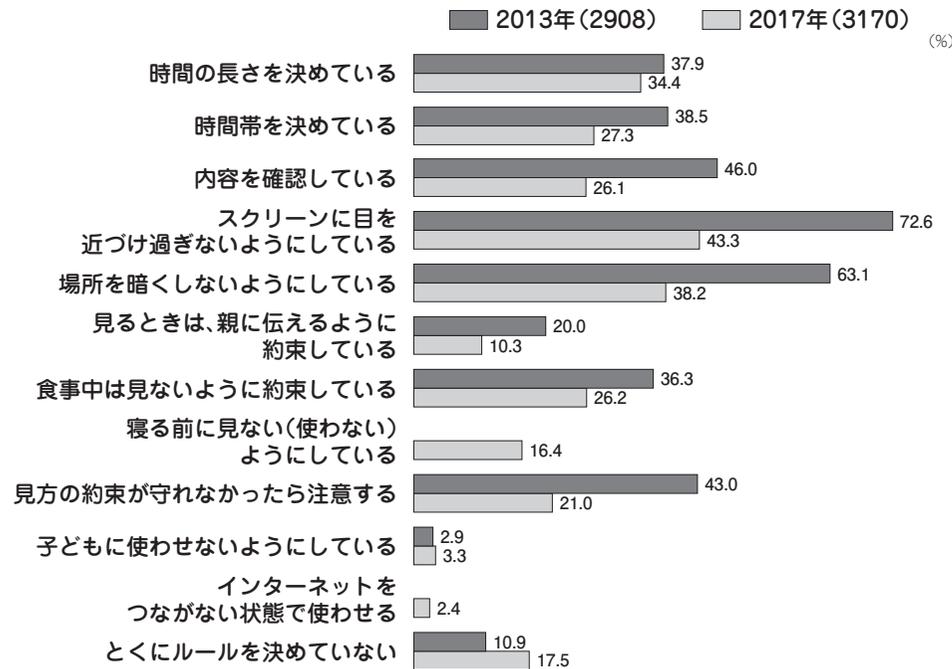
どのメディアもルールへの認識が薄くなっているが、メディアごとに重要とされるルールと、ルールを徹底する年齢が若干異なっている状況であった。今後はそれらの状況を整理し、ガイドライン等を設けていくことが重要な課題である。

●どのメディアについてもフィルタリングをかけている割合は低い

子どもが使用するメディアについてフィルタリングをかけているのだろうか。子どもが使うことのあるデジタルメディアにフィルタリングをかけているかどうかたずねた。結果をみると(図2-1-10)、「パソコン」「タブレット端末」「スマートフォン・携帯電話」「据え置き型ゲーム機」「携帯型ゲーム機」ともにフィルタリングをかけている回答は1割以下であった。2013年と比較するとパソコンが8.0%から3.9%と減少していた。

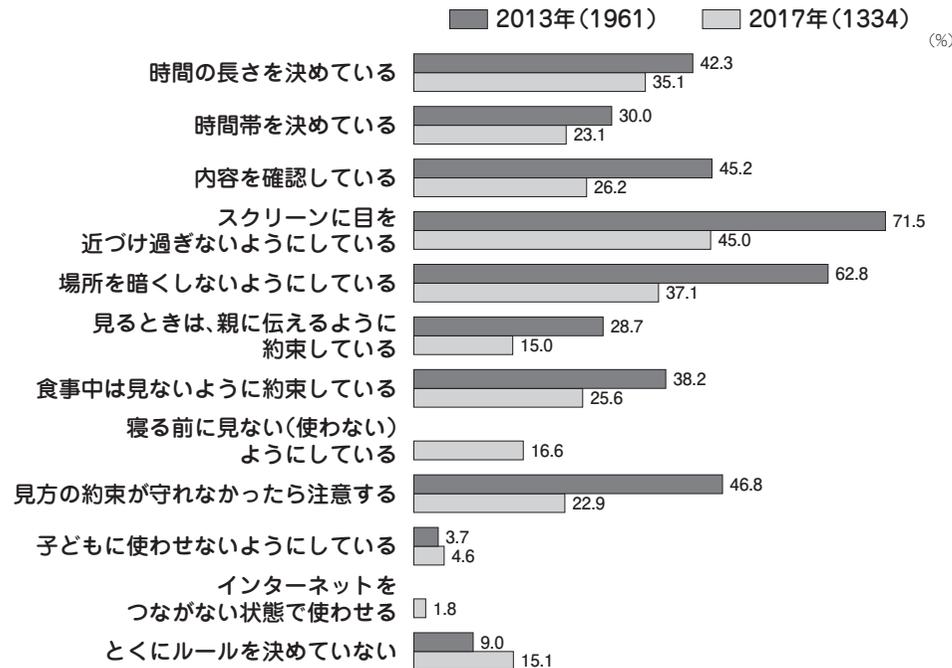
多少の変化があるものの、子どもの誤使用をフィルタリングにより対策することは、依然としてハードルが高いようである。この年代の子どもは、使用している状況を常に保護者が観察でき、内容も保護者が確認することができるため、いわゆる小学生以上の子どもで懸念されるいじめや出会い系サイト等のインターネットのトラブルが起これないといわれているとも考えられる。しかし、子どもが操作方法をわからないがゆえにランダムにクリックすることで、ウィルスに感染したり、課金されたりするという問題は懸念される。別質問にあるデジタルメディア使用による気がかりの点でも「有料サイトや危ないサイトにアクセスする可能性がある」については、インターネット動画・画像(YouTubeなど)やスマートフォン・タブレット端末・パソコンのアプリ・ソフトで6割以上の懸念の項目となっている。最近では、タブレット端末やスマートフォン用のアプリで、子どもの使用制限が容易にできるものが登場している。端末自体が提供する機能制限もある。ルール決めが減少傾向である現状を踏まえ、アプリ、端末の設定、フィルタリングを用いて制御できることを整理すると同時に、どのようなテラシーを親子が身に付けていくべきか、幼いころから適切なメディア利用が行えるよう検討していくことは重要な課題である。

図2-1-2 テレビ番組（録画を含む）の視聴ルール（経年比較）



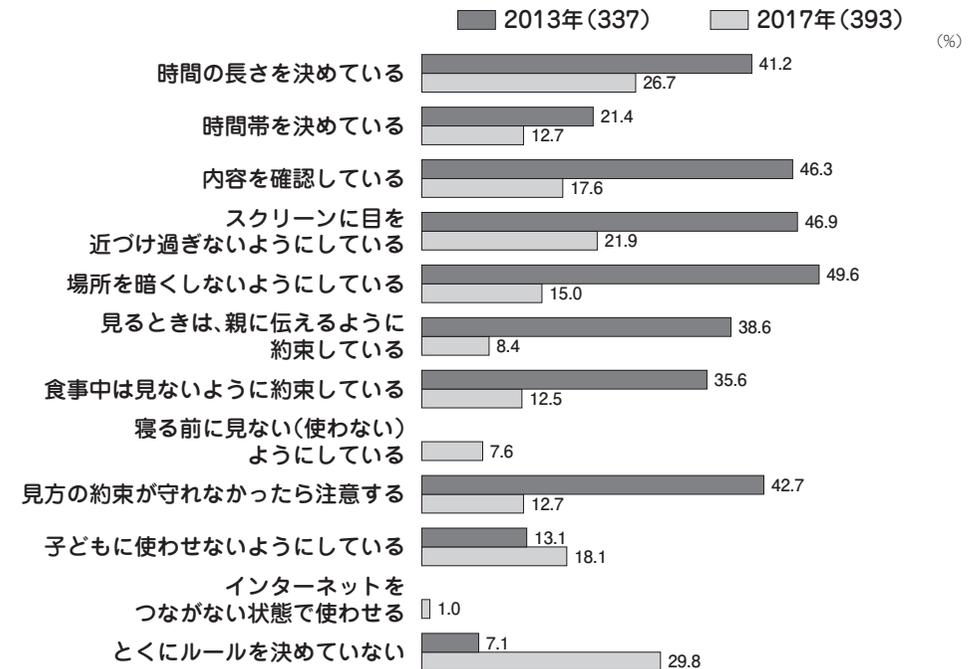
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-3 ビデオ・DVDの視聴ルール（経年比較）



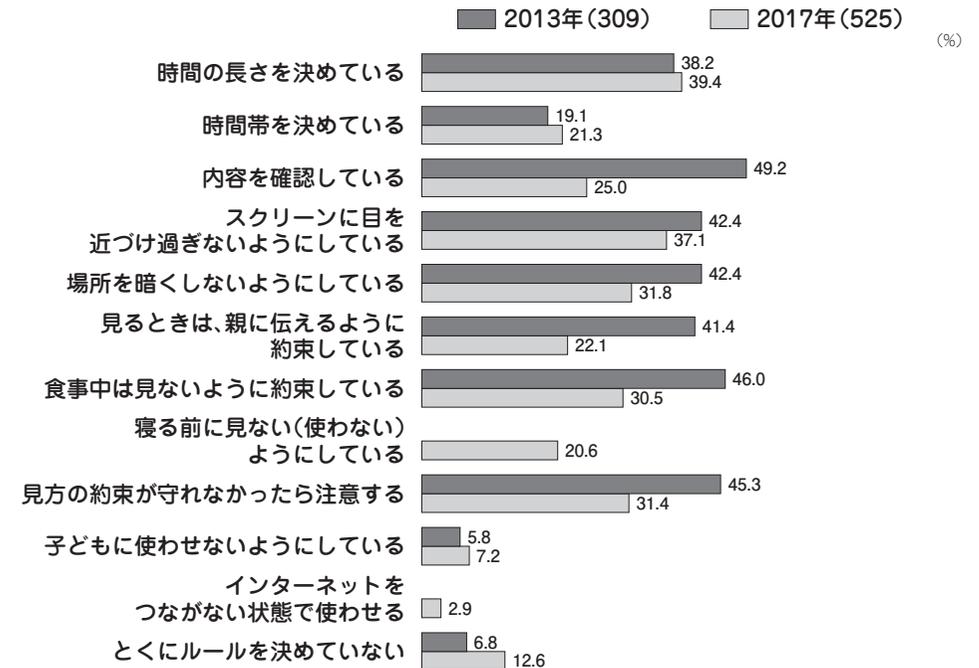
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-4 パソコンの使用ルール（経年比較）



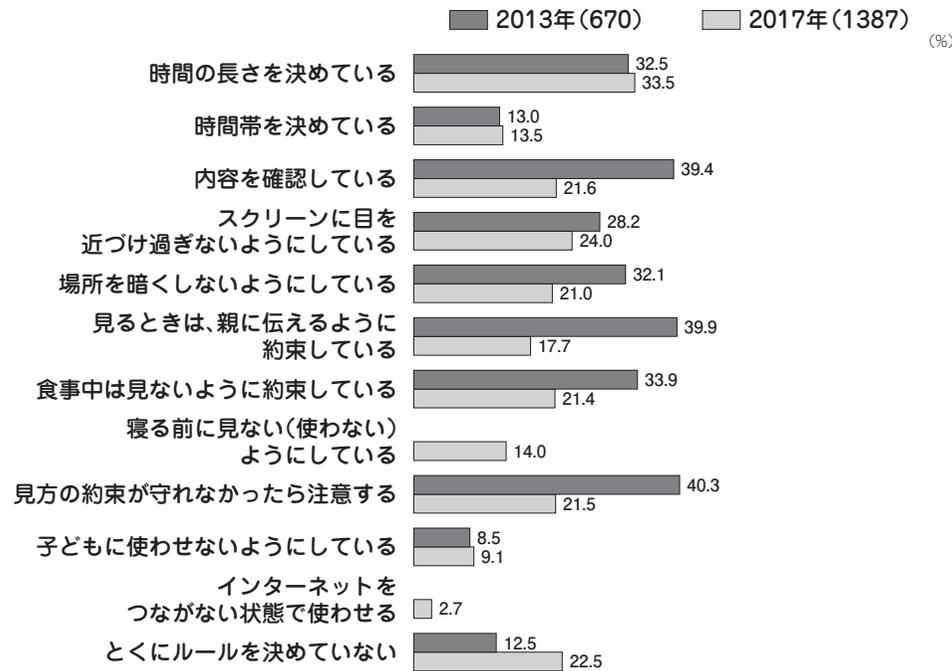
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-5 タブレット端末の使用ルール（経年比較）



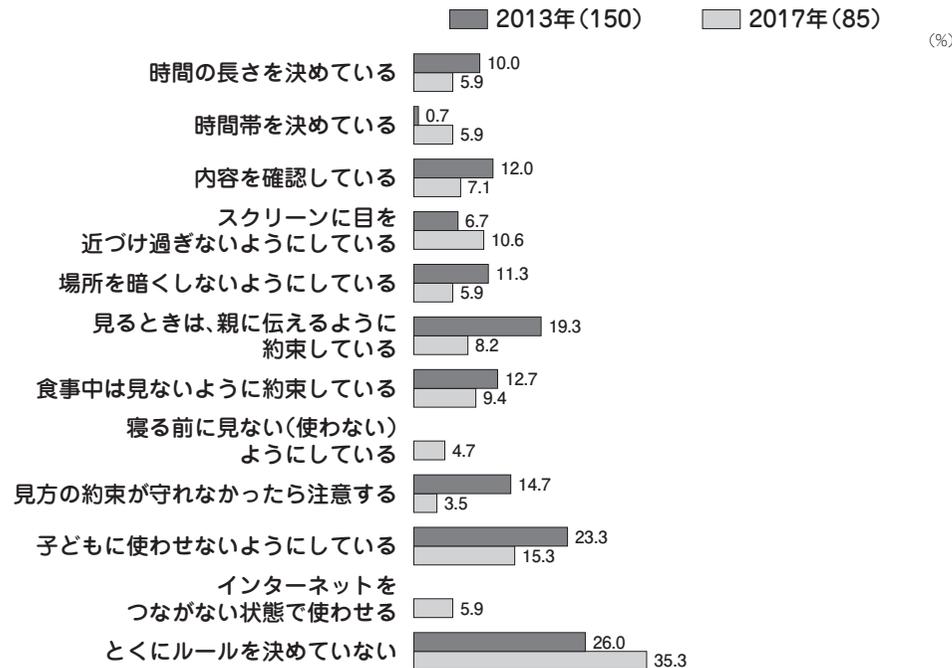
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-6 スマートフォンの視聴ルール（経年比較）



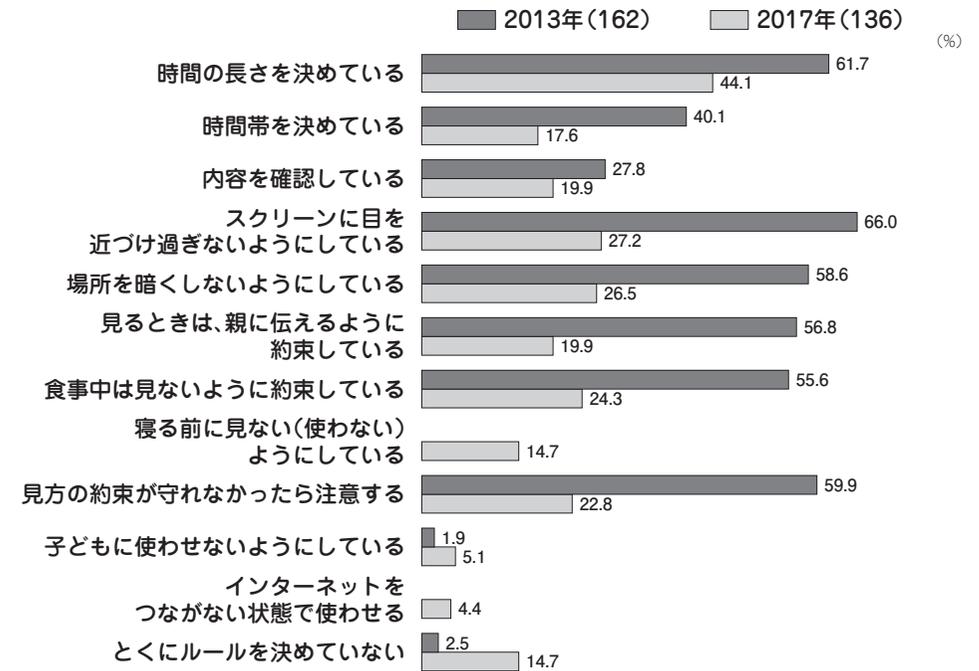
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-7 携帯電話の使用ルール（経年比較）



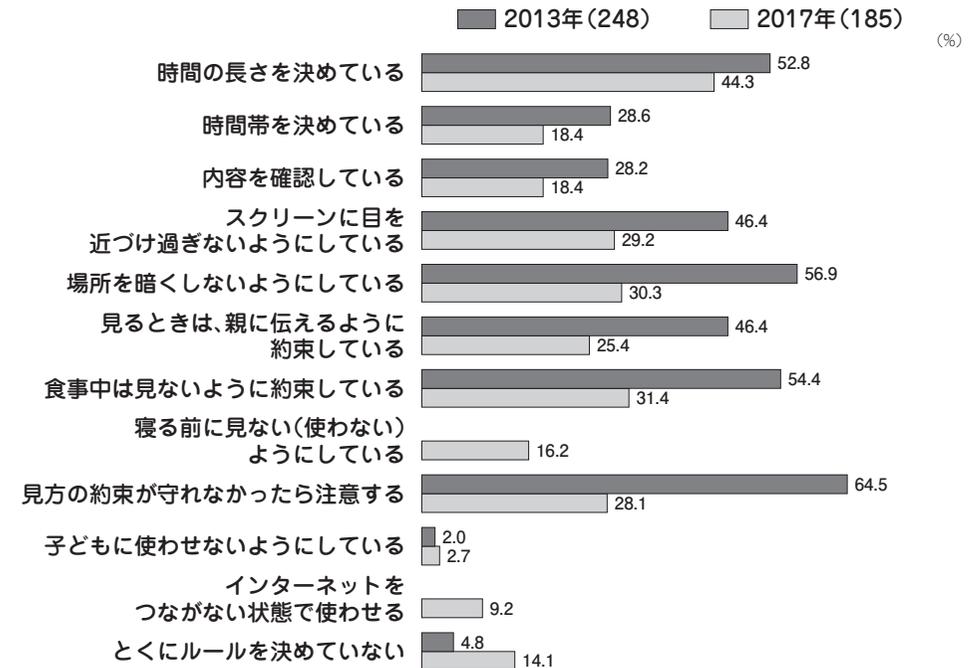
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-8 据え置き型ゲーム機の使用ルール（経年比較）



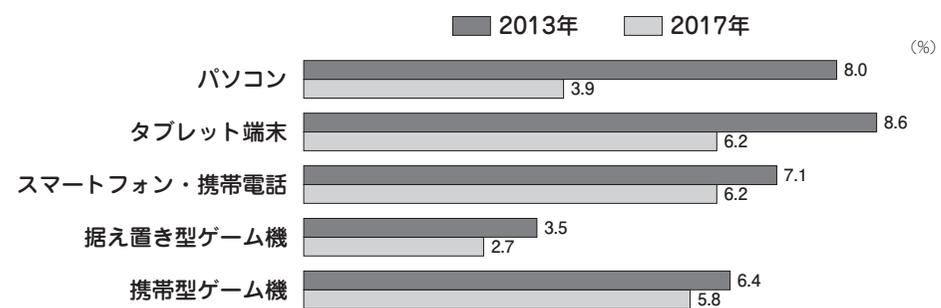
注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-9 携帯型ゲーム機の使用ルール（経年比較）



注1) 家にその機器があり、子どもがそれぞれのメディアを1週間のうち、週1～2回以上使っている場合のみを算出。
 注2) 2013年は無答不明を除く。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-1-10 フィルタリングをかけているか(経年比較)



注1) 「わからない/家がない」と答えた人を除く。

注2) 2013年は無答不明を除く。